

相模原市・リニア中央新幹線の停車駅、橋本地区

～首都圏南西部の交流拠点に～

日本不動産研究所 横浜支所
不動産鑑定士 鈴木 憲一

時速 500km で走行し、東京～大阪間を約 1 時間で結ぶリニア中央新幹線は、ルートや駅位置が示されるなど、実現に向けて計画が具体化してきました。平成 25(’13)年 9 月、相模原市緑区の「橋本」駅付近に、リニア中央新幹線の神奈川県駅をつくる計画が JR 東海より公表され、橋本地区が一躍脚光を浴びています。

平成 39(’27)年の開業を目指す神奈川県駅は、「橋本」駅南口に隣接する県立相原高校の敷地で、面積は約 10ha、JR 横浜線・相模線と京王相模原線が乗り入れる一等地です。駅の構想は、地下 30m に幅最大 50m、長さ 1km、面積 3.5ha の規模で、主な旅客施設は地下 3 階構造となり、地下 3 階に 2 面 4 線の島式ホームが、地下 2 階には改札口などが設置され、駅の地下 1 階と地上部について、地元等での活用が考えられています。



「橋本駅南口と県立相原高校」

橋本地区は工業団地が集積するエリアでしたが、平成 2(’90)年に京王相模原線が延伸され、「新宿」駅との直結により、急速に開発が進んだ地域です。また、橋本地区は、国道 16 号と国道 129 号との合流エリアで、自動車交通の要衝でもあり、平成 26(’14)年 6 月に開通予定の首都圏中央連絡自動車道（圏央道）「相模原 IC」まで約 5km の好立地にあり、広域交

流拠点としての発展が期待されています。



「橋本駅北口駅前広場」

リニア中央新幹線の開業により、橋本地区と東京都心間の所要時間は、現在の約60分から約10分に短縮されます。また、東京都心と中部圏、近畿圏間の所要時間は、それぞれ40分、67分となります。このように、リニア中央新幹線の開業により、三大都市圏間の速達度は飛躍的に向上し、リニア新駅の駅勢圏は、相模原市及び東京都下をベースとして、神奈川県中部～西部、横浜市・川崎市西部、埼玉県中～西部を含む圏域になるといわれています。

また、圏央道の機能を生かし、新たな交通ネットワークの形成を図ると共に、今後予定される相模原総合補給廠の一部返還と小田急多摩線の延伸により、相模原市は、三大都市圏と結ばれる首都圏南西部の交流拠点となり、その中心が橋本地区となります。

地元では、新幹線駅で発展した新横浜を超える「日本の橋本」になるチャンスだと期待されています。